

令和8年松本市議会6月定例会  
市長閉会あいさつ

[8.6.25(木) 13:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

今月8日に開会した6月定例会も、本日をもって閉会となります。議員の皆様には、18日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案どおり決定していただいたことに対しまして、厚く御礼を申し上げます。

この中で、オーストリア・ザルツブルク訪問に関する経費の予算を決定いただきました。来月21日から7日間の予定で現地を訪問し、ザルツブルク州と幅広い交流に関する覚書を締結してまいります。

覚書は、これまで築いてきた協力関係を基盤とした交流の更なる促進と、文化と自然の価値ある資源を生かし、双方の地域振興に向けて緊密な関係を築くことを目的に、とりわけ音楽・芸術・観光の分野で協力を深めていくこととしています。

具体的には、情報交換や相互訪問、共同イベントの開催などを想定し、今回の訪問では、モーツァルトに関する研究やコレクションの管理を行っているモーツァルテウム財団や、音楽教育で世界的に有名なモーツァルテウム大学、松本市で昨年公演を行ったマリオネット劇場の関係者とそれぞれ会談する予定です。

加えて、オーストリア共和国から寄贈された万博パビリオンのオブジェの受入れと設置について、オーストリア政府の関係者と面会をして、意見を交わすことにしています。

今後、ザルツブルクで開催されてきた世界的な公演や、モーツァルテウム大学との連携による音楽プログラムを、松本市で実施することなどを通じて、若い世代をはじめ大勢の市民の皆さんに交流の意義を感じていただけるよう取り組んでまいります。

松本市公設地方卸売市場は、開設から37年が経過し、施設の老朽化と流通環境の変化に即した再整備が課題となっているため、市場関係者らと協議を重ねて、今後の在り方を多角的に検討してきました。

そして、今年3月、卸売市場について、食の安定供給と生産者の出荷先確保のために機能を維持する必要があること、老朽化した施設は大規模改修ではなく建替えが必要なこと、事業者の意向に沿った施設をより早く安価に実現するには、行政による公設ではなく民設が望ま

しいこと、民設となった場合でも松本市が一定の関与と支援をしていくことなどを松本市の考えとしてまとめ、市場内の部類別協議会と市場運営協議会に示しました。

市場関係者からは、民設への移行を前提に協議を始めることに一定の理解を得られたものの、行政の関与と支援の方法を見極める必要があるとして、具体的な計画を進める段階には至っていないのが現状です。

そこで、今年度できるだけ早く、有識者や公民双方の市場関係者らによる「卸売市場在り方検討委員会」を設置し、卸売市場がどうあるべきかの基本に立ち戻った上で、民設への移行の是非と、松本市の関与と支援の具体的な方法について、年末を目途に取りまとめを行うこととしました。

卸売市場は、生鮮食料品などの適正な価格形成と安定供給に必要な施設であり、関係者と十分な合意形成を図った上で最適な方法による再整備を進めてまいります。

松本市が設置の準備を進めている松本市立特別支援学校について申し上げます。

源池小学校と清水中学校に併せて設置される松本市立特別支援学校は、3年後の小学部の開校に先立って、来年4月に小学1・2年生を対象とした長野県寿台支援学校の分教室を源池小学校に開設します。

特別支援学校小学部の校名は、法令上、支援学校と小学校を区別する必要がありますが、学校運営においては、子どもたちが1つのインクルーシブ教育システムの中で学ぶことを表すため、総称としては「源池小学校」としたいと考えています。

特別支援学校を併設する源池小学校の施設は、中庭を中心に、小学校と特別支援学校の児童が校舎内を自然に行き来できる動線とし、教師同士が連携できるよう職員室は1つにすることなどにより、障がいのある子もない子も自然に交流し、共に学ぶことができる環境を整備していきます。

既に就学を希望する児童や保護者に対する教育相談や校舎見学も行われ、新しい学校への期待が高まっています。松本らしいインクルーシブ教育を牽引するフラッグシップ校となるように丁寧に準備を進めてまいります。

昨年11月に改定した松本市役所新庁舎建設基本計画で、現在の本庁舎側の敷地については、庁舎としては利用せず、松本城を核とした公共空間の一部として整備する方針を決めました。

実際に整備する時期は、10年程度先に現在の本庁舎を解体して新たな本庁舎の供用が始まった後になりますが、今から大勢の市民が関心を寄せて共に将来像を描いていくことを目的に、来月から2年間の連続セミナー「NEXT MATSUMOTO GATE（ネクストマツモト ゲート）」をスタートします。

「NEXT MATSUMOTO GATE」の名称は、10年先を見据えた長期にわたる取組の入口に当たること、松本城の正門に当たる太鼓門の真正面に位置する場所であることにちなんだもので、松本市民にとって特別な価値を持つ公共空間の利活用について、次代を担う若い世代の参加を促し、多面的な対話を通じて深掘りしてまいります。

初回のイベントは来月26日にMウイングの6階ホールで開催します。城郭考古学者の千田嘉博（せんだ よしひろ）さんらをゲストに迎え、松本城と市役所敷地の関係性を紐解き、松本市が歩んできた「松本城のある暮らし」の変遷をたどるトークを行います。

バレーボールSVリーグ男子、VC長野トライデンツのチーム名が「信州松本トライデンツ」に変更されることが決まり、昨日、運営会社が発表しました。

VC長野トライデンツは、2013年に現在の運営母体が設立された後、日本バレーボールリーグ機構に加盟して、Vリーグに参戦し、2021年には松本市とホームタウンパートナー協定を締結し、試合会場の使用やバレーボール教室の開催などを通じて、スポーツ振興を基軸とした活力ある個性豊かなまちづくりで協力を進めてきました。

おととしからは、完全プロ化を念頭に結成された新リーグ・SVリーグに加盟し、エアウォーター・アリーナ松本をホームアリーナとして、日本のトップチームと対戦してきました。

今回の名称変更について、トライデンツの運営会社は、松本でホームゲームを行うチームであることを信州の内にも外にもはっきりと刻むためであり、質実剛健で勝者のメンタリティを持つ集団に生まれ変わり、国内最高峰のリーグで頂を目指すと表明しています。

新チームには、生まれつきの難聴でありながら、2度のオリンピックでアメリカをメダル獲得に導いた世界屈指のミドルブロッカー、デイビット・スミス選手をはじめ、欧米各国の代表クラスが入団しました。本拠地の南箕輪村の皆さんが全面的に支援してきた源流とともに、松本のまちの魅力と市民の熱気が全国はもとより世界へ発信されていくことを期待いたします。

結びに当たり、議員の皆様におかれては、時節柄、健康にご留意いただくとともに、市政発展のために引き続きご支援ご協力を賜るようお願い申し上げ、6月定例会閉会に際してのご挨拶といたします。

ありがとうございました。

(以 上)